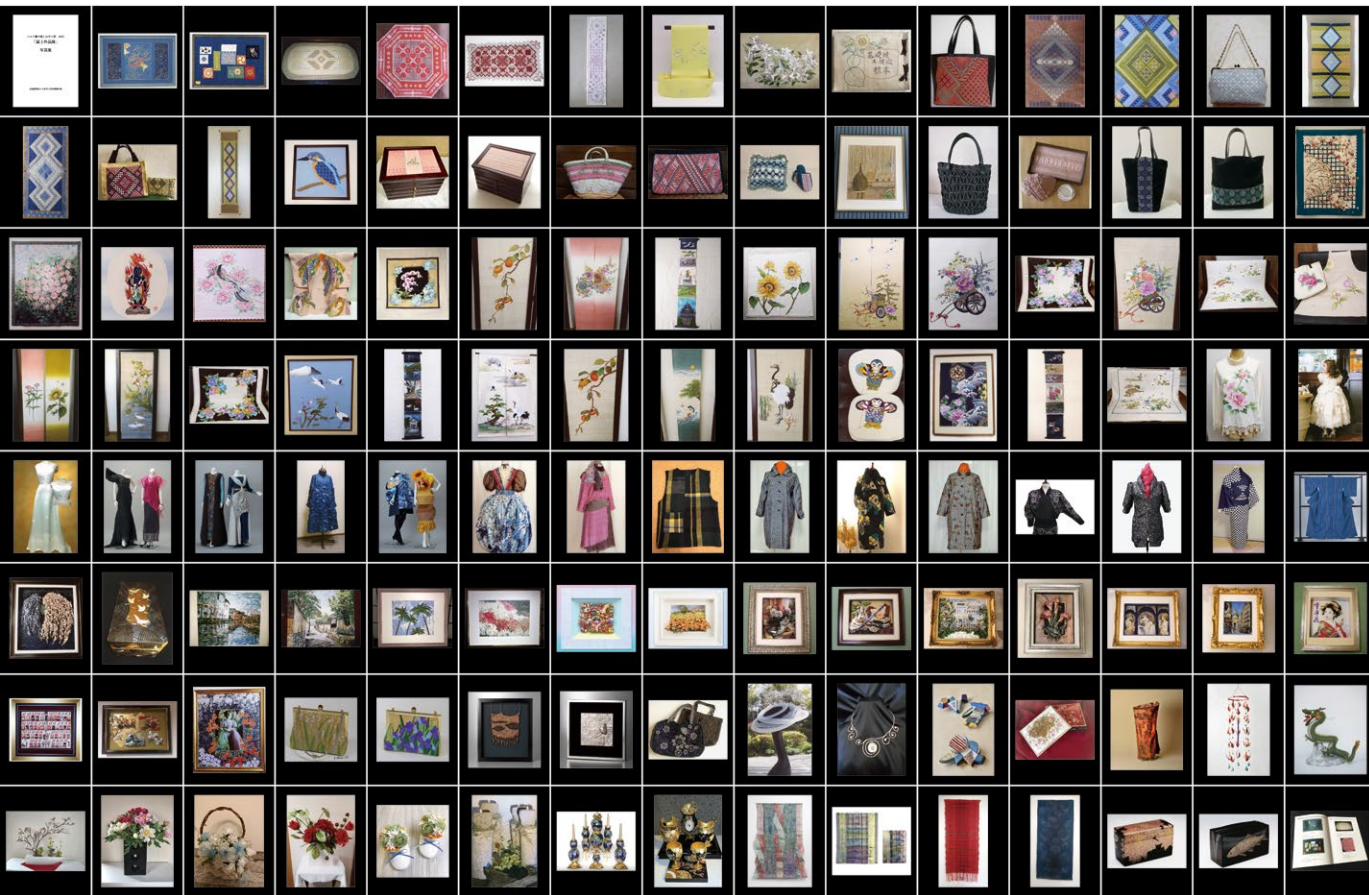


2021 vol.207 OCT

SOUSAKU

創作手工芸



コロナ禍で楽しむ手工芸 2021「誌上作品展」写真集より

公益財団法人日本手工芸作家連合会

コロナ禍で学んだこと

公益財団法人日本手工芸作家連合会

会長 花村 邦 昭



コロナ禍は依然として収束の気配を見せておりませんが、この長いコロナとの闘いのなかでわれわれが改めて学んだのは「公共」とは何かについてでした。＜自分は独りで生きているのではない、多くの人に支えられて生かされていること＞への「感謝」の精神によって「公」が支えられ、＜自分が他者のためにいま為し得ることは何かを不断に自問し続けること＞から生まれる「報恩」の所業によって「共」が支えられるという事実への改めての気づきでした。つまり、「公」的価値実現のために互いが如何に「共」的協働を組成し得るかの学習でした。

この学びを通してわれわれはさらに広い世界へと視界を開かれます。一つは「資本主義」の今後についてです。いま伸展中のAI-DXと相俟って、これまで専ら「自己利益」のみを追求してきた「貨殖資本主義」は「利他共生」に配意する「公共文化資本主義」へと遷移していくだろうという展望です。いま一つは「民主主義」のあり方についてです。「自己権利」を専ら主張してきた「人権民主主義」は「共感共同体」を志向する「国家公共民主主義」へと伸展してい

くだろうという見通しです。つまり、「公共」＝「感謝報恩」の精神所業が「利他共生」＝「共感共同体」の営為創成へと拡張されていくことの再確認です。

これは手工芸文化が永い歴史のなかで培ってきたわが国の基層文化でもあります。そこにあるのは、他者のために自らを無条件に差し出そうとする純粋な贈与・奉仕の精神（「利他共生」の営為）であり、多くの人たちによって丹精込めて作られた素材や道具を感謝の念を以って使用し、先人たちから受け継いだ技に報恩の想いを込めてさらに磨きをかけ、それに独自の創意工夫を加えて皆に共感を以って受け入れてもらえる作品に仕上げる所業（「共感共同体」の創成）です。そして見落としてはならないのは、この文化的営為は、いまや企業や行政機構などにおいて組織運営上の基本原理となりつつあるということです。つまり、これまでの制度主導的マネジメントは手工芸的マネジメントへとシフトしてきているという事実です。これはサテライトオフィスや在宅でのリモートワークにおいて現にわれわれが日々体験しているところです。

われわれ「公益財団法人 日本手工芸作家連合会」の全国的活動がこのような歴史的視野のもとで見直されるなら、それは美しい「国のかたち」成形という国民的課業において何がしかの貢献をなし得ることへの満足に繋がります。そういう高い志をもって、当連合会もこれからの活動を続けてまいりたいと存じます。

会員の皆さまのいっそうのご活躍と、協賛会社さまのさらなるご理解、ご支援、ご協力を改めてお願い申し上げます。

審査委員長 大 矢 紀 (日本美術院同人 評議員)



2021年 再興 第106回院展 富貴百華 (同人) 大矢 紀

世界中に蔓延するコロナに人々はどんな気持ちで日々過ごされているのだろうか？

一般の人々は会社、公務員、農業、海に関する人々等々、それぞれの生業の中での仕事をやっていれば、それで一応形はととのうが、作家、音楽家、いわゆる芸術、自由業の人々は常に自分との戦いで、どんな物を創り上げるかどうか又発表する機会が少なくなるなど社会の変化について行くのが大変である。本当に困ったものである。しかし物は考え様でこんな時だからこそ、普段は考えもしない発想をしてもよいのではないか、またこう云う時だからこそ大胆な飛躍を考えても楽しいのではないだろうか。又こう云う非常時だからこそ、初心にもどっての基礎的な事も勉強するのも悪くはない。新しい発見があるかもしれぬ。今回コロナ禍で去年、今年と二年展覧会が中止になり誌上作品展となった由、大変な折に多数参加された事にまずもって敬意を感じるものである。

誌上作品をゆっくり拝見すると展覧会で審査する時と違いいろいろな事がわかり、今までと少し違った見方、考え方も出来当方も大変勉強になり、うれしかったものである。

刺繍のスモッキング刺繍 もっと巾を広げてもおもしろくなる。染色関係では何と云っても手描友禅であろう。この分野は動植物の写生が基本で、とにかく数を描きながら対象物に愛情を持つ事が大切である。服飾造形では積極的にリメイクを考えてみる。戦後時代を育った私には平気で物を捨てる気持ちがわからない。立体造形ではシャドーボックスの技法を無限大に使いたい。又彫金技法を使うジュエリーの絵画化は将来的に見て有望である。とにかくこの分野は楽しく繭を使ったものや卵の作品など、どれも楽しく立派である。染織これは一本一本の細い糸をどう処理するか、そしてどう織るか無限の楽しみである。飾ってよし、マフラー、ドレス等々に、うれしい衣服になり、なんと云っても一品ものである。とにかくにも手工芸作品は、創作する人の心であり魂でもある。

コロナ禍で大変ではあるが、コロナ明けの次の時代の為にも自身の為にも耐えしのび、大きな華を咲かせたいものである。終りのない道ではあるが、それだけにやりがいもありがんばるのではないだろうか。皆さんの新しい作品を拝見するのが待ちどろしい。

コロナ禍で楽しむ手工芸 一誌上作品展一写真集

コロナ禍で楽しむ手工芸「誌上作品展」に多くの皆様よりご応募いただき誠にありがとうございました。応募者82人より応募総数118点の作品が集まり、無事にコロナ禍で楽しむ手工芸「誌上作品展」一写真集一（A4サイズ63ページ）が完成いたしました。

世界中が新型コロナ感染症の災禍に見舞われ、今なお感染がおさまらない状況です。

当連合会の創作手工芸展も2度にわたり中止せざるを得ない状況となりましたが、会員の皆様や、手工芸愛好家の皆様と作品を通して繋がりを持ち、手仕事を続ける喜びや、励みの一助になるとの思いで写真集を企画実施いたしました。多くの皆様からご好評のお言葉や、躊躇していたが参加して本当に良かったなどのお声が届き、関係者一同たいへん嬉しく安堵しております。

また、この企画では応募作品のアンケートを実施いたしました。アンケートは、今の「コロナ禍」で皆様と共に楽しく遊び心のある人気投票を試みました。応募の皆様に写真集の中から10点までを選んでいただき、得票上位の皆様の作品を本誌に掲載いたしました。

上位5点（①～⑤）はホームページに掲載されます。



一誌上作品展一写真集表紙 作品写真見開き

アンケート投票上位作品 10 点



①

29 柳 直子（一般）

花香る春庭

H190cm × W145cm

技法 パッチワークキルト



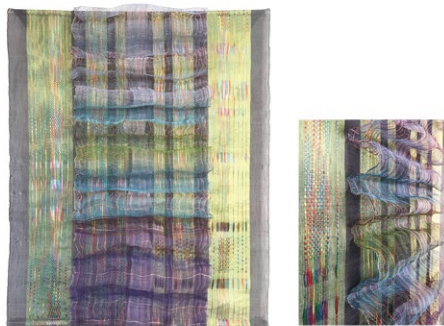
②

31 猪股 洋子（会員）

祈り「コロナの収束を願って」

H143cm × W54cm

技法 手描友禅



③ 114 佐久間 恭子（会員）

Universal Harmony II

H117cm × W96cm × D10cm

技法 染織（刺し子織・模紗織・緞織）

④

30 有賀 萬里子（一般）

カルミアの咲く頃

H205cm × W166cm

技法 クレイジーキルト





⑤

63 江田 弓子 (会員)

藍染のシャーリングコート

H125cm × W85cm

技法 洋裁・染色



82 福田 桜 (会員)

ひまわり畑

H34cm × W42cm × D6cm

技法 シャドーボックス



103 中村 稔子 (一般)

鶴 H130cm × W35cm × D35cm

技法 和布細工



8 水谷 いづみ (会員)

白ゆり H48cm × W65cm

技法 日本刺繍



23 松本 志津美 (会員)

涼

クッション H30cm × W30cm /

スリッパ H25cm × W8cm

技法 スモッキング刺繍

15 水木 恵美 (一般)

水面

H95cm × W45cm

技法 津軽こぎん刺し



(※写真集をご希望の方はp12 参照)

●もう一つのパラリンピック

公益財団法人日本手工芸作家連合会評議員

安方クリニック

蔵方宏昌



オリンピックに引き続き「身障者のオリンピック」といわれるパラリンピックが開催された（8月24日～9月5日）。パラリンピックの発祥はロンドン。1948年ストークマンデル病院国立脊髄損傷センター長ルードウィヒ・グッドマン博士が両下肢麻痺患者26人を集めて開いた競技会である。

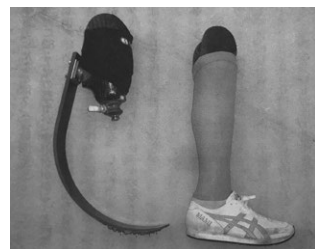
1952年国際競技大会になり、その後、毎年ロンドンで行なわれた。オリンピックに引き続いて開かれるようになったのは、1960年のローマ大会からである。

パラリンピック paralympic という名称は、パラプレジア paraplegia（両下肢麻痺）とオリンピック olympic を合わせた造語で、1964年の東京大会から用いられた。

当初は下半身麻痺の人だけだったが、その後、視力障害者、さらに知的障害者、脳性麻痺患者も参加できるようになった。

今回は161の国・地域から4400人ほどのアスリートが集まり、22競技、539種目が行なわれた。日本からは250人ほどが参加している。身体障害のアスリートが健常のアスリートと同じように活躍する姿を見ると、創始者グッドマン博士が言ったと伝わる「失った機能を数えるな、残った機能を最大限に生かせ」という言葉が蘇える。

身体障害のアスリートを支えるのが、車いすや義手義足を作り修理する技術者や義肢装具士である。競技用車いすや義肢（図）はアスリートの体型・障害の程度・競技種目によって異なってくるので、大量生産できない手作りの技が必要となる。



スポーツ義足（左）と日常生活用義足

競技用の車いすや義肢は年々進出し、パラリンピックはその技術者たちの技を競う大会でもある。パラリンピックでは車いすや義肢が体力の限界を使って使用されるため、破損も激しい。そのため、パラリンピックには技術者（整備士）や義肢装具士たちが待機し、破損した物を修理したり、アスリートの身体に適合し使い易いように調整したりしている。アスリートと技術者や義肢装具士たちとはチームプレーヤーであり、世界中からアスリートと一緒に技術者や義肢装具士が100人ほど集まってきたという。

（図・「スポーツゴジラ」 第1巻 第9号 2009年 スポーツネットワーク発行）

【略歴】 東京都大田区生まれ 昭和大学医学部医学科卒 産婦人科助手 厚生年金病院産婦人科医長を経て安方クリニック開設現在に至る。順天堂大学医史学研究室入室 医大で医学史、看護学部、医療専門学校で医学概論、外科学を講義。学会活動多数。医療関係、鐘馗像、カルタ等多くの資料収集、群馬県医師会資料館・津和野町立旧畑迫病院展示室へ展示資料提供・監修を行っている。

●コロナ禍の活動 「結び目」

東京都 Madame kie 主宰 薮本一翠

会期：2021年8月2日～28日

会場：千代田区外神田1-6-3丁子ビル1階

創作手工芸展において、多彩な分野のモノ作りに係わる作家の方との出会いに触発され、東京オリンピックに来日する外国人をはじめ、多くの人に日本のモノ作りの魅力を発信する場を提供したいという夢物語に「朝日村まゆの花の会」の細井幹子氏が実現へと働きかけてくれました。しかしながら2020年3月、コロナ禍により計画は中止を余儀なくされました。2021年、無観客のオリンピックが開催される事になり、止まったままの計画に向き合うことにしました。

出展する作家も細井氏と私の二人となり、ギャラリーのテーマは当初考えていた「結び目」。作り手という糸と買い手という糸を結ぶ場所にしたいとの思いから細井氏が名付け、場所は秋葉原の細井様のビルにて。当初、思い描いていたような開催はできませんでしたが、結果的に思ってもみなかった出会いに、新たな視点を持つきっかけとなりました。コロナ禍でのギャラリー開催を通して、人々との交流の中で得るものが沢山あると改めて感じました。



展示風景①



展示風景②

展覧会 DM

●「日本刺繍 夏休み親子体験教室」について

伝承者養成会実行委員会事務局
公益財団法人日本手工芸作家連合会理事
東京都 内田桃子

重要無形文化財保持者(刺繍)福田喜重先生のご指導のもと、2013年度より日本刺繍伝承者養成会実行委員会が主催し、文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業)事業として始まりました。

2015年度より文化庁の伝統文化親子教室事業となり福田喜重先生が刺繍コースの特別講師としてご出講していた女子美術大学の短期大学部・芸術学部の刺繍卒業生の教員を招聘し、小学生親子を対象とした「日本刺繍夏休み親子体験教室」として毎年実施し現在に至っています。

(於 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F教室)

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止しましたが、今年度は感染防止対策を徹底して7月25日～8月14日まで4日間の教室を実施しました。

子供たちは「金箔と刺繍によるポーチ」、親は「波をモチーフにしたブローチ」を制作、最終日には可愛い作品に出来上がり持ち帰ることができました。

刺繍の技術だけでなく、日本の伝統模様、日本刺繍の歴史的作品的の紹介等があり、日本刺繍とは何かを理解して頂けたと思います。「楽しかった。」「もっと刺繍をしてみたい。」「材料はどこで?」などなどの感想を頂きました。」これまでに作った作品は古帛紗、ミニ額、クルミボタン、カード等があります。



夏休み親子教室会場風景



子供の作品

親の作品

●ボビンレース

東京都 マダムPSボビンレース&組紐工房 松岡たか子

2021年2月～ ネット上にて時折発表はじめました。
銀座旭画廊にて会員向けサイトに年間発表

「私とボビンレース」

時代に抗い制作に1年2年複雑、本物の材料を求め自分の能力にも抗い求め下したデザインが力及ばない世界でも諦めず、どうしたら美しく仕上げる事が出来るか寝ても醒めても思い悩む内、連日糸とボビンが勝手に動き出し制作に入る毎日、表面はただのレース、しかし目には見えない所に悩みぬいた新手法がまた一つ増えていく。文部省名称時、文部省認定レース編物技能検定一級にボビンレースがある事を知り困難は有りましたが一級検定取得数年後、審査委員資格取得、この事が私にとり力となり変化を与えてくれたのでは。今から思いますとそれが土台に。又多くの女性達が真摯に能力を向上させている姿が大きな支えとなりました。

無駄な努力、手法と言われようと毎日愚鈍な作業に邁進しています。そのような事を嫌う時代ですが日本から発信するボビンレースを世界に向けて知っていただけるよう心がけています。

●with corona

東京都 英国刺繍教室 福留理恵子

LONDONに20年滞在後現在東京在住、自宅アトリエにて英国刺繍教室を主催。

コロナ禍のためお教室をお休みし早1年半、ロンドンに住んでいる息子達とは2年近く会えていませんでしたが頻繁にテレビ電話で連絡を取っていました。今年は7月にロックダウンの解除されたイギリスを訪問し元気な息子達と会い安心しました。街はクローズしてしまったお店も多くシャッター街となった通りもありました。一番大変だったのは往復の隔離で特に帰国時のホテル隔離はとてつらかったです。

英国のロックダウンは1年間(!)で開いているのはドラッグストアとスーパーだけ、外出は1日20分の散歩のみ。違反者には厳しい罰金。レストランもカフェもパブもクローズでしたが大きなデモもなく英国国民と政府が一体になりロックダウン開けには国全体が大仕事をやり遂げたという雰囲気がありました。

イギリス人の友人にこの期間何をしていたかと尋ねると皆ガーデニングとの答え。さすがイギリス人です。

日本のコロナどうなるんでしょう? と思いつつ1人刺繍をする針が重い毎日です。

●活動報告

*リビエール教室 フラワーデザイン 東京都

- ・2020年8月1日よりYouTube配信開始
チャンネル名「フラワーデザインリビエールの世界」
同時に9月より動画テキストによるレッスン開始



*福田桜 シャドーボックス 神奈川県

- ・2021年5月1日～30日 JR横須賀線保土ヶ谷駅展示スペースにて展示

●活動計画

*第29回猪股洋子と創作手描友禅華の会作品展

- ・猪股洋子 手描友禅 岡山県
会 期：2022年1月18日～23日
会 場：岡山県天神山文化プラザ第2展示

＊梅支部「第28回創作手工芸梅支部展」

・梅支部 福岡県

会 期：2021年10月12日～17日

※中止となりました。

＊梅支部「第26回手作りフェアin九州」

会 期：2022年2月展示（予定）

会 場：マリンメッセ福岡（予定）

＊シャドーボックス作品展示

・アトリエ・Reo アート教室石田則子 シャドーボックス 千葉県

会 期：2021年10月30日～31日

会 場：昭和学院短期大学

＊ボビンレース展「心に点そうそれぞれの灯りを」

・富澤千寿 ボビンレース 北海道

会 期：2021年11月23日～11月28日

会 場：札幌市資料館S&Lボビンレース合同展示会

●本の紹介 内田桃子の「カウント ステッチ」

刺繍は針と糸さえあれば生地の上に自由に図柄を表現できる技術です。刺繍の起源は特定されていませんが古墳の副葬品から発見されるなど、非常に古くから人々の生活と共に発達してきました。また刺繍は教会の祭壇を飾る敷物や法衣等にほどこされるなど、宗教と共に発達してきた側面もあります。刺繍が家庭に広まると刺繍をほどこしたテーブルクロスや枕カバー、タペストリー等が制作されるようになり、刺繍は良家の子女のたしなみとされました。

スペイン刺繍は地域ごとに多様な技法があります。その多様な技法はキリスト教文化とイスラム文化を融合させながら発展してきたスペインの歴史にも大きく影響を受けています。

本書ではスペイン刺繍の多様な技法の中から初心者向きの技法を選び、スペイン刺繍独特のデザインを色数をおさえ日常的に使える作品にしてお紹ししています。

作り方も丁寧に説明してありますので、是非ポーチやクッション作ってみて下さい。

（※書店にない場合詳細はp12参照）



マガジンランド社刊
「カウント ステッチ」表紙

●会員有志によるマスクケースの製作と寄贈



寄贈マスクケース

昨年の会員有志によるマスク製作と寄贈に続き、今年も本連合会評議員の蔵方宏昌医師からマスクケース製作のご提案をいただき、同時にマスクケースの型紙コピーも送っていただきすぐに製作に入ることができました。会員有志6名、各々手持ちの布を使い、洗えるマスクケース100枚が完成、2021年3月、昨年と同じ2か所、社会福祉法人友愛十字会、特別養護老人ホーム愛成苑へ楽しい気持ちで使っていただければとの思いで50枚ずつ寄贈させていただきました。

“各施設で有効に活用させていただきます”とお礼状をいただきました。

※原稿投稿のお願い 会員の皆様の活動、展覧会などの情報をお待ちしております。

● トーチキスと手工芸文化

公益財団法人日本手工芸作家連合会理事 三和正明



トーチキスポーズ



トーチキスセレモニー新聞掲載

コロナ禍のもとで開催した東京五輪2020は、選手たちの懸命の奮闘と悲喜こもごもの人間ドラマによって多くの感動が生みだされ、またボランティア各位の頑張りも奏功して無事に閉会式を迎えることができ、誰もが胸をなでおろしました。

実はこの東京五輪、私の末娘（といっても6歳児の母ですが）が港区の聖火リレーランナーに選ばれていたため沿道で声援を送るのを楽しみにしていたところ、深刻化するコロナ禍で公道での聖火リレーは中止となり楽しみが半減してしまいました。

が、それに代わる企画として都内のリレーエリアごとにランナーが集結し、トーチの聖火を次の走者に順送りしていく「トーチキス」とその後に披露される「トーチキスポーズ」を公開するイベントが開催されることとなり、7月22日に会場の「しながわ中央公園」内の特設ステージで演じられた出場各選手の気合のこもった演技披露に惜しみない拍手を送りました。

各選手の演技を見ているうちに、ふと「リレー」という行為自体が暗示する人間の営みに思いが及び始め、太古の昔から後世に伝承（リレー）したいと念じてきた大切な事柄に対して人類が抱き続けてきた熱い思いと、その結果として脈々と継承されてきた麗しき習慣、気品ある儀式、美しき技量、深

みのある文化といったかけがえのない人類の遺産のおかげで今日の私たちが己の感性に磨きをかけることができるのだとの厳粛な思いを新たにし、胸がいっぱいになりました。

考えてみればその道は我々日本手工芸作家連合会が長い年月をかけて求め続けている世界でもあるだけに、東京五輪2020実施の年に点火された私共の心の「松明」が煌々と炎の輝きを増す中で手工芸文化の奥深さに接し得る喜びを新たにできるのであれば、今年ほどそれにふさわしい年はないのではないかと、との思いを新たにしました次第です。（写真説明：東京2020公式インスタグラムに搭載された娘の「トーチキスポーズ」と翌朝の読売新聞に掲載された選手一覧の中の娘の掲載写真です）

● 【第207号 SOUSAKUの表紙掲載作品118点について】

本年7月に発行いたしました“コロナ禍で楽しむ手工芸2021「誌上作品展」写真集”に掲載されました作品118点すべてを、表紙に掲載させていただきました。会員はじめ一般の皆様からご応募いただきました心のこもった大切な作品です。

手工芸を愛する皆様と作品を通して繋がりたい、という本会の思いが実現し今後への継続を願うとともに素敵な記念となる表紙になりました。

●講習会

＊2020年10月～2021年3月

第6回 R2 11/14

「木の実いろいろXmas リース」

佐久間恭子



木の实いろいろ Xmas
リース



制作風景

第7回 R2 12/12

「しめ縄の正月飾り」

池田節子



しめ縄の正月飾り



制作風景

＊2021年4月～2022年3月

第1回～第4回までは新型コロナウイルス感染の影響を受けて中止（4月～9月）

第5回～第10回も状況次第で中止の可能性があります。詳細はHP・事務局へ問合せ

■講習会ご案内（予定）

第5回 R3. 10月9日(土)

スモッキング刺繍のクリアポーチ

松本志津美

越前屋ビル8F

第6回 R3. 11月13日(土)

可愛い木の实のXmasリース

佐久間恭子

〃

第7回 R3. 12月11日(土)

水引でつくるミニ正月飾り

池田 節子

〃

第8回 R4. 1月24日(月)

白糸刺繍

濱田 昌世

(株)クロバー

第9回 R4. 2月12日(土)

ハイビスカスのカットワーク

内田 桃子

越前屋ビル8F

第10回 R4. 3月12日(土)

カルトナーージュ

神山 康子

〃



スモッキング刺繍のクリアポーチ



可愛い木の实の Xmas リース



水引でつくるミニ正月飾り



ハイビスカスのカットワーク

●オンライン講習会の計画をしています。

事務局ではオンラインによる講習会を検討しています。テーマは会員の皆様からのリクエストにより決定していきます。

テストケースとして、第一回目は欧風刺繍の基礎ステッチ数種とその応用作品一点。

＊実施時期—令和4年4月以降

その他、事務局宛てリクエストをお寄せ下さい。

TEL：03-5282-5141 FAX：03-5282-5140 E-mail：info@syukogei-sakka.or.jp

●(公募) 第55回創作手工芸展のご案内

【会 期】 令和4年5月29日(日)～6月4日(土)

【会 場】 東京都美術館 ギャラリーC

【応募期間】 令和4年2月16日(水)～5月7日(土)

・ギャラリートーク：開催6月1日(水) 13:30～14:00

「チャリティーバザー」同時開催

第55回創作手工芸展に於いてチャリティーバザーを開催いたしますので、会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

●令和3年後期資格認定審査のお知らせ(普通科・高等科審査のみ行います)

令和3年11月17日(水) 審査、11月10日(水) 申請申し込み締め切り日

●資格免状取得者

資格名	資格者氏名	科 目	資格名	資格者氏名	科 目
普通科	加 瀬 由美子	シャドーボックス	講 師	小野寺 美 雪	クレイアート
普通科	齋 藤 文 子	遊佐刺し子とパッチワークコラボ	講 師	加 藤 理 香	ハーダンガー刺繍
普通科	佐 々 千鶴子	遊佐刺し子とパッチワークコラボ	講 師	深 谷 由美子	スモッキング刺繍
高等科	加 瀬 由美子	シャドーボックス	講 師	福 間 聡 子	スモッキング刺繍
高等科	齋 藤 文 子	遊佐刺し子とパッチワークコラボ	助教授	田 中 澄 江	欧風刺繍
高等科	佐 々 千鶴子	遊佐刺し子とパッチワークコラボ			

●資格取得者へのおすすめ

当連合会は、手工芸教育の普及発展を目的として、手工芸指導者の養成教育としての資格認定・免状授与を行っております。資格取得後は手工芸セミナーの指導者、社会教育における中学校・高等学校での指導者、生涯教育における指導者などの派遣を通じて、さまざまな手工芸分野で活動し、技術の向上に貢献しております。また、支部・教室で技術を習得することもできます。資格取得は生涯学習の宝です。皆様、どうぞ資格取得にチャレンジして下さい。

●新入会員紹介(令和2年10月～令和3年9月、敬称略、9名)

遠藤 公江(岡山県)、佐々木 敬子(岡山県)、深井 好子(岡山県)、寺崎 一江(千葉県)
山口 好子(千葉県)、本間 京子(東京都)、佐々 千鶴子(山形県)、齋藤 文子(山形県)
小野寺 美雪(三重県)

*内田桃子の本「カウント ステッチ」書店にない場合はE-mail info@syukogei-sakka.or.jp までご連絡ください。

*コロナ禍で楽しむ手工芸 2021「誌上作品展」写真集

2,500円/冊(送料込み)。お申込みは同封の申込用紙または事務局にお問合せください。

●次回発刊予定のご案内

次回 SOUSAKU 208号(創作手工芸)の発刊は令和4年10月を予定しております。

編集後記 -----

当連合会の運営は会員の皆様からの会費、ご寄附により支えられています。手工芸の世界に関わっている皆様、愛好家の皆様、これからご支援のほどお願い申し上げます。

発行日/2021年10月吉日

発行/公益財団法人日本手工芸作家連合会
〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-6-10

MOビル407号室

TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140

E-mail:info@syukogei-sakka.or.jp

URL http://www.syukogei-sakka.or.jp/